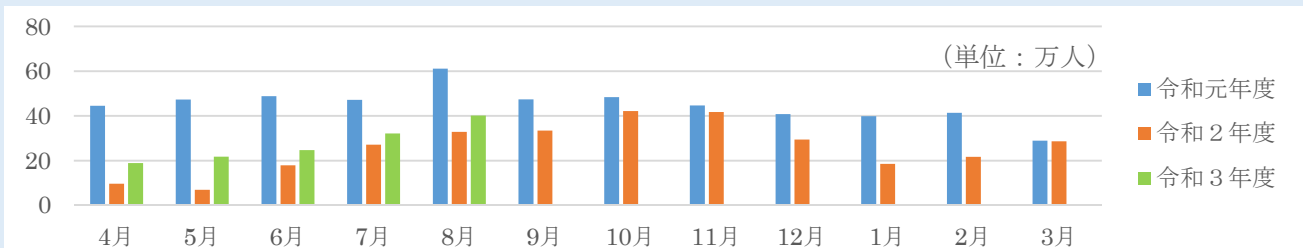


1 本県観光の現状

- ・新型コロナウイルス感染症拡大による観光施設の休業や外出自粛、入国制限により宿泊者数、観光者数とも大幅に減少。

(1) 延べ宿泊者数(観光庁「宿泊旅行統計調査」より)

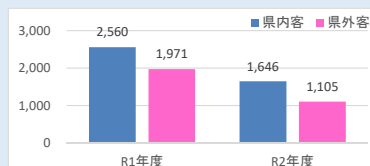
令和元年: 557万人 → 令和2年: 351万人 対前年比: ▲36.9%



(2) 観光者数

令和元年度: 4531万人 → 令和2年度: 2751万人

対前年度比: ▲39.3% (県内容: ▲35.7%、県外客: ▲43.9%)

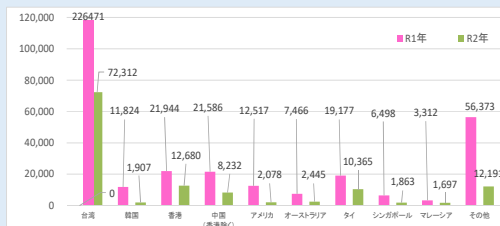


(3) 外国人旅行者受入実績

令和元年: 388,928人 → 令和2年: 125,930人

対前年比: ▲67.6%

※台湾: ▲68.1%、韓国: ▲83.9%、米国: ▲83.4% 等



2 観光客の動向変化

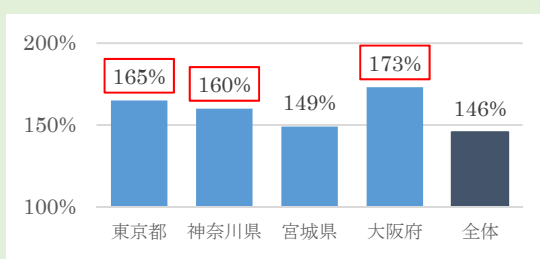
- ・旅行に積極的な層と慎重な層の2極化が見られる
- ・大都市圏からのサイトアクセスが増加するなど、潜在層も含めた旅行需要は増加傾向
- ・旅行の少人数化が加速するとともに、新たな旅行需要への関心が高まっている

(1) コロナ禍での観光旅行に対する思い



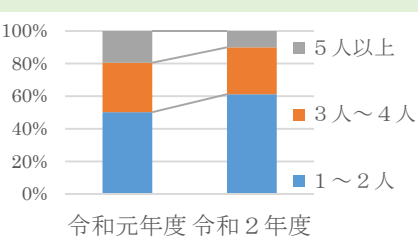
(日本観光振興協会調べ)

(2) 県観光サイトのアクセス数 (R3/R2 同期比)



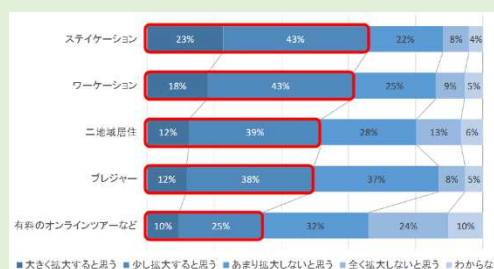
(本県調べ)

(3) グループ当たりの人数



(本県調べ)

(4) 今後拡大しそうな旅行の新形態



(2021.3 日本交通公社)

(5) サステナブル観光



(2021.6 booking.com)

3 観光受入施設における意識

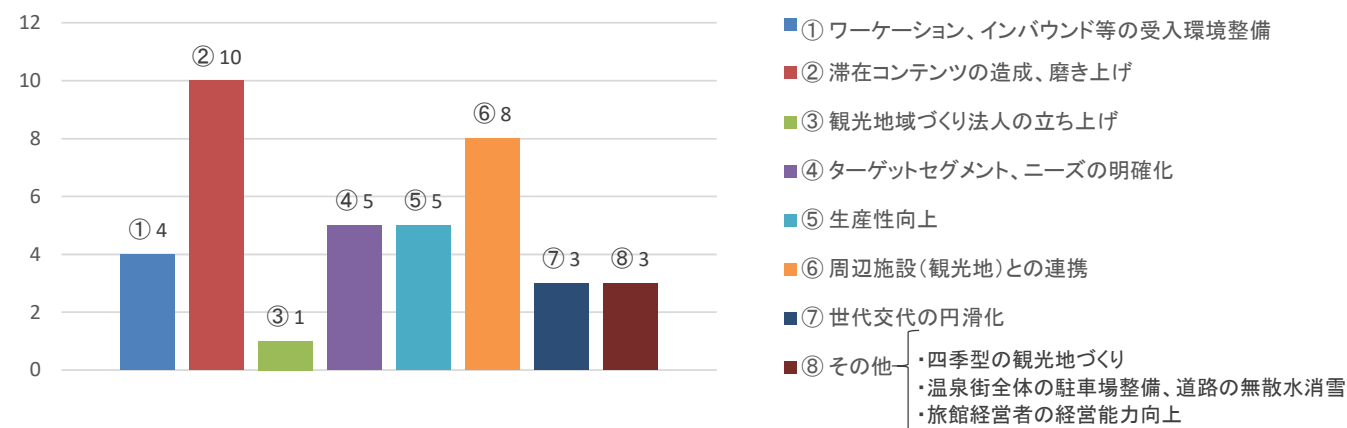
- ・密を避け海や山など自然を活用した新たなコンテンツ造成や健康に意識を向けたコンテンツの磨き上げなど、「新たな滞在コンテンツの造成、磨き上げ」への対応
- ・失われた観光需要を回復させていくため、ポストコロナに向けた新しい分野の開拓

(1) 観光受入施設における意識調査(令和3年10月本県調べ)

期間: 令和3年8月31日から令和3年9月15日まで

対象: 山形県旅館ホテル生活衛生同業組合のうち「温泉・旅館組合」である17組合

(設問) 温泉地を維持・発展させるために何が必要とお考えか(複数選択)



4 ウィズコロナ・ポストコロナに向けた取組み

- ・安心安全を求める「意識の変化」、個人旅行化、新たな旅行需要などに対応し選ばれる観光地へ
- ・精神文化や自然を活かした高付加価値な観光コンテンツを創出

(1) 観光需要の回復に向けた取組み

県民泊まって出かけキャンペーン~やまがた四季旅~【R3.4月、6月補正予算】等	1千円の支払いごとに500円の割引(上限5千円)+観光立寄り施設で利用できる2千円クーポン発行
---	---

(2) ポストコロナに向けた支援

山形県宿泊施設受入体制強化緊急支援事業費補助金【R3.6月補正予算】	ポストコロナに対応した前向き投資や感染症対策への支援
山形県観光立寄施設緊急支援事業費助成金【R3.9月補正予算】	バリアフリー化、非接触型決済システムの導入等への支援
山形県料亭文化緊急支援事業費補助金【R3.9月補正予算】	ポストコロナを見据えたバリアフリー対応、庭園の改修等への支援

(3) 選ばれる観光地への取組み(継続)

「やまがた出羽百観音」プロジェクト	本県が誇る精神文化の柱のひとつとしてのブランドを確立し、次世代に受け継ぐとともに、観光誘客に資する地域資源として活用
「世界の蔵王」プロジェクト	年間を通して国内外からの多くの観光客で賑わう「四季のリゾート」世界の蔵王の確立